

# まちの生きものくらべ ガイドブック



せ た が や く  
世田谷区

こんな生きものが見つかるよ!



タヌキ



ハクビシン



コウモリ



オナガ



ツバメの巣



カマキリ類



ヒグラシ



クマゼミ



カブトムシ &  
クワガタ類



アゲハチョウ類



カナヘビ & トカゲ



ヘビ類



ヤモリ



ヒキガエル



カタツムリ類

チョウやカブトムシなど、いろいろな生きものがたくさん棲  
む世田谷にするため、いま、どんな生きものがあるのかをし  
らべ、どうしたら共生する環境をつくれるかを考えましょう。



# 生きものたちの暮らし

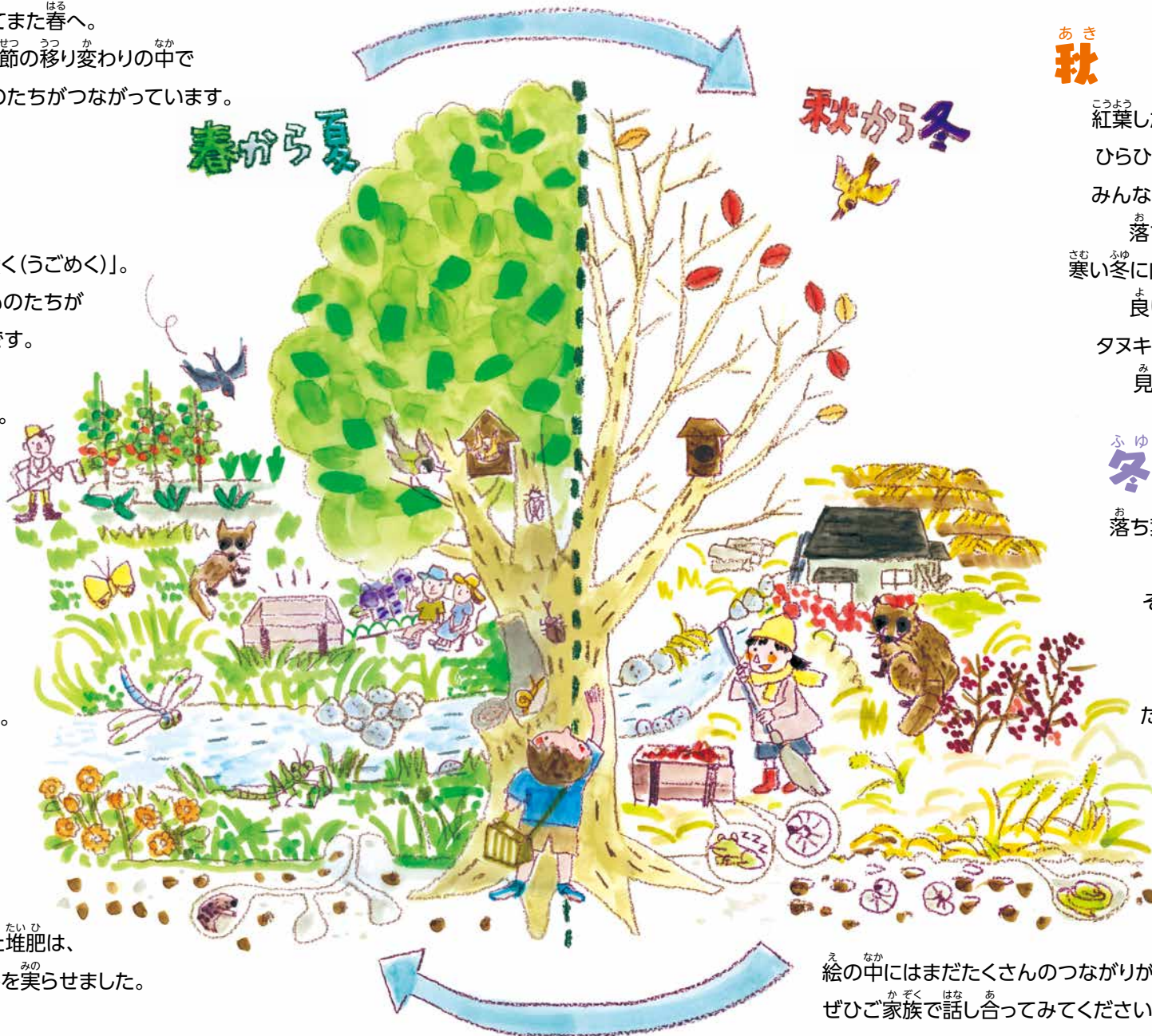
春から夏、秋から冬、そしてまた春へ。  
大きな木のまわりでは、季節の移り変わりの中で  
多くのさまざまな生きものたちがつながっています。

## 春

「春」の下に「虫」2匹で「蠢く(うごめく)」。  
なんだか土の中で、生きものたちが  
もぞもぞと動き出しそうです。  
芽吹いた若葉を食べて  
もりもりと育ったイモムシ。  
あっという間に親鳥が  
ついばんで、ヒナに  
与えようとしています。

## 夏

大きな木からセミの声。  
樹液に集まったカブトムシ。  
洞の中では、カタツムリが  
雨を待ちわびています。  
木漏れ日の対岸では、  
気持ち良さそうに涼む  
人がいます。  
落ち葉だめでつくっていた堆肥は、  
畑にまかれて立派なトマトを実らせました。



## 秋

紅葉した木々が、風が吹くたびに  
ひらひらと葉を舞い散らせます。  
みんなでせっせと落ち葉を集め、  
落ち葉だめはもう一杯です。  
寒い冬に向けて、ヤモリは居心地の  
良いすみかを探しています。  
タヌキはだんだんと冬毛になり、  
見た目も丸々してきました。

## 冬

落ち葉だめの中はあたたかく、  
ヒキガエルが冬眠中。  
その隣では卵からかえった  
カブトムシの幼虫が、  
大人になるために  
たくさんの落ち葉を食べて  
フンをしています。  
トマトを実らせた堆肥は、  
こんなふうにして  
出ていたんですね。

絵の中にはまだたくさんのつながりが隠れています。  
ぜひご家族で話し合ってみてください。



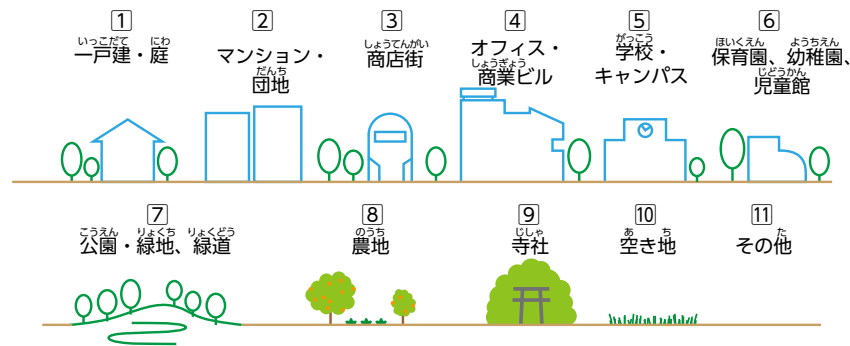
## ● こんな生きものを見つけよう！

これらの生きものを調べることで、わたしたちの暮らす世田谷が「どのようなまち」なのかが見えてきます。

- ① **タヌキ**：林や森などの環境を好みますが、街なかの環境も上手に利用しています。
- ② **ハフビシ**：木登りが得意で人家の屋根裏にも潜んでいます。外来種。
- ③ **コウモリ**：昔からある街並みや水辺環境を好みます。
- ④ **オナガ**：林や森が残っている環境を好みます。子育てには高い木が必要です。
- ⑤ **(今年営巣していた)ツバメの巣**：賑わいのある商店街や駅などに巣をつくります。さらに周辺に土や水辺がある環境を好みます。
- ⑥ **カマキリ類**：エサになる昆虫類が多くいる自然が豊かなところを好みます。
- ⑦ **ヒグラシ**：やや湿った樹林地環境を好みます。
- ⑧ **クマゼミ**：もともとは、関西より西に分布していたゼミです。
- ⑨ **カブトムシ&クワガタ類**：林や森などの環境を好みます。意外なところにも？
- ⑩ **アゲハチョウ類**：林、農地、公園、草地など、種類によって好む環境が異なります。
- ⑪ **カナヘビ&トカゲ**：エサになる昆虫類が多くいる草地、庭先、石垣などを好みます。
- ⑫ **ヘビ類**：エサになる小動物が多くいる草地や水辺などを好みます。
- ⑬ **ヤモリ**：昔からある街並みでよく見られ、人が住む家などに住みついています。
- ⑭ **ヒキガエル**：エサになる昆虫類が多くいる樹林や水辺などがある環境を好みます。
- ⑮ **カタツムリ類**：湿り気のある林や公園、庭などを好み、乾燥した環境に弱い種です。

## ● こんな場所に注意しよう！

わたしたちの身近な場所にも、生きものはたくさんいます。自分の家の庭、毎日通う学校やオフィス、お気に入りの公園や緑道、なにげなく通っている道や商店街など、ちょっと気を付けて探してみてください。きっといろいろな生きものが見つかるはず！



## ● 街に出かけて探してみよう！

ガイドブックや図鑑を持って、街に出かけてみよう。生きものを見つけたら、場所や時間、見つけた時の生きものの様子を記録しておく、詳しく調べる時に役立ちます。

### 生きものしらべ 心構え6か条

… 次の約束はかならずまろう

- 〈その1〉車や自転車で気を付ける
- 〈その2〉夜の調査は、子どもだけでは出かける
- 〈その3〉ヤブの中などに入る時は、ハチやドクガに注意！
- 〈その4〉人の家には勝手に入らない
- 〈その5〉しかけたトラップは片付けよう
- 〈その6〉むやみやたらに、つかまえない



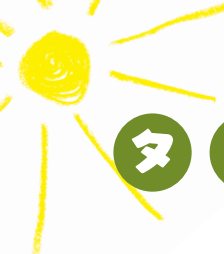
### もっと生きものを見つけるための秘訣5か条

… 生きもの気持ちになって注意深くさがしてみよう

- 〈その1〉まずはじっくり待ってみる
- 〈その2〉目だけではなく、耳もすませる  
五感(目、耳、鼻、口、手)を使おう
- 〈その3〉草や木にかじられた跡はないかな？
- 〈その4〉フンは落ちていないかな？
- 〈その5〉いろいろな時間帯を変えて調べてみる







# タヌキ



## タヌキの暮らし

タヌキは、昼間は木の洞や岩穴、他の動物が掘った巣穴、都会では使われなくなった土管などで休んでいます。夜に動き出し、カエル、サワガニ、ネズミ、トカゲ、魚、木の实などを食べます。意外と木登りなども得意で、金網のフェンスも上手に登ることが出来ます。でも穴を掘るのは苦手です。



## タヌキのトイレ

タヌキは家族や親戚みんなで1つのトイレを使います。これを「ため糞」といって、トイレのにおいでお互いの情報を交換しあう役割もっています。例えばお父さんタヌキがフンをした後に、お母さんタヌキがフンをしに行くと「あら、お父さんたら柿をいっぱい食べてきたのね! 私も食べに行こう」ということもあるかもしれません。

## 見つけポイント

タヌキは、夜に行動する夜行性の生きものです。そのような生きものを観察する方法として、昼間のうちに足跡や「ため糞」の場所を見つけておくとよいでしょう。タヌキがどんなふうに行動しているのかを推理してみると楽しいですよ。

## 身近な生きものタヌキ

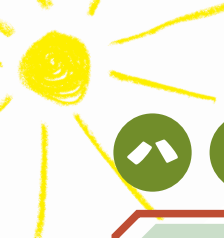
漢字で獣偏に里と書いて「狸」と読むように、日本人にとってタヌキは昔から身近な存在です。「タヌキ寝入り」や「タヌキの腹鼓」など「タヌキ」を使った諺もたくさんあります。



## タヌキと生物多様性



タヌキが生きていくためには、木の实や小動物などの食べ物が必要です。また、死んだタヌキも分解されて、土の養分となり他の生きものを育てます。このように生きものは、食べる・食べられるの関係を通してつながっています。たくさんの生きものが、様々な場所ですぐつながりを持って生きていることを、生物多様性といいます。現在、地球上には、約175万種の生きものがいて、まだ知られていないものも含めると、約3千万種の生きものがいると考えられています。一方で、自然環境の悪化により、年間約4万種が絶滅しているとも言われ、このような種の絶滅は、多くの生きもののがつながりをつなぐことになり、深刻な問題です。

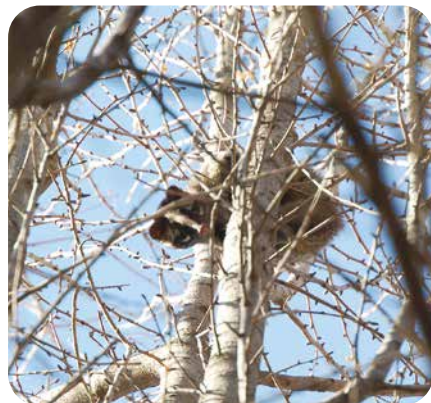


# ハクビシン



## こんな生きもの

顔に、筆で書いたような白い線が特徴的なハクビシン。体は灰褐色で、顔面と足の下部は黒色です。尾が胴体と同じくらい長いところも、ネコやタヌキと見分けるポイントになります。人家のまわりにも住んでいて、木登りが得意なので、人家の屋根裏をめぐらすることもあります。そのためフンやオシッコのにおいが問題になることもあります。夜行性で、鳥やその卵、昆虫類やその他の小動物、果実などいろいろなものを食べます。



## がいらいしゅ 外来種

原産地は東南アジアで、日本では江戸時代・明治時代の確実な生息記録がないことから、がいらいしゅと考えられています。1940年代ごろから各地域で増えてきて、現在は40都道府県で生息が確認されています。最近では都市部にも急激に進出していて、区内でも目撃情報が寄せられています。ちなみに、駆除対象となる「特定外来種」ではありません。



# コウモリ

## コウモリの暮らし



コウモリ=吸血鬼というイメージがあるかもしれませんが、ほとんどのコウモリは小型で、夜に行動して虫などを食べています。日本では沖縄で見られる大型のコウモリが、昼間に行動して花の蜜や果物などを食べたりしています。実際に動物の血を吸うコウモリは、世界にいる約1000種の中で、たった3種類で南米にしかいません。

## こんな生きもの

実ははっきとしたほ乳類で、しかもほ乳類の中で、コウモリだけが空を自由自在に飛ぶことが出来ます。昔の人はコウモリのフンがよい肥料になるため畑にまいたり、幸せを呼ぶ縁起のよい動物と考えられていました。蚊などをたくさん食べることから「川を守る」→「川守り」からコウモリの名前がついたという説もあります。「たくさん」とはどの位かという、一日に約500匹ぐらいで、重さでいうと、自分の体重の半分ぐらいの昆虫を食べているようです。

## み 見つけるポイント

コウモリは暗い夜でも、超音波を出して上手に飛びながら昆虫を捕まえます。昼の間は雨戸のすき間や、橋の下、木の洞、木陰などにいて、夕暮れとともにねぐらから出てきます。夕方、家に帰る道で空を見上げると、小さな影がヒラヒラと飛ぶ姿を見つけることができるかもしれません。





# オナガ

## オナガの鳴き声



フェーイフェーイ

ギューイギューイギュー

### 子育てを助け合う鳥

オナガはカラスの仲間、翼と尾羽が青灰色、頭には黒いベレー帽をかぶった、とてもきれいな鳥です。でも声はしわがれていて、それを聞くと「やっぱりカラスの仲間だな」と感じるかもしれません。昔は、九州と本州にいましたが、現在は関西では見られなくなった不思議な鳥です。ふだんから群れで生活していて、繁殖期には何家族もが集まって、1本の木にたくさんの巣をつくれます。オナガは、子育ての手伝いをする「ヘルパー」がいることで有名です。「ヘルパー」になるのは、お相手を見つけれなかった若いオスが多く、巣のヒナにエサを運ぶなどして、血のつながった親や兄弟を手伝うことが多いようです。



### ちゃっかり者？ うっかり者？

オナガはちゃっかり者でもあります。ツミというタカの仲間の巣のすぐそばに自分の巣をつくって、カラスの攻撃を避けたりします。でも、その反面カッコウに卵をすり替えられてしまっても気づかず、カッコウのヒナを育ててしまう、うっかり者？の一面もあります。区内では、砧公園、馬事公苑などのほか、大きな木がまとまっている住宅地などでよく見られます。



# 今年営巣していた ツバメの巣

## ツバメは人間のそばが大好き

ツバメはとても身近な鳥です。昔から田んぼのワラや畑の土を利用して、家や商店街のひさしの裏などに巣をつくってヒナを育ててきました。それは、人がたくさんいると、カラスやヘビなどから大事なヒナを守ることができるからです。農業のなかった昔の人にとって、ツバメは、田んぼの害虫を食べてくれるありがたい鳥でした。ツバメが巣をつくるとお店が繁盛するといつて大事にされてきたことも、ツバメが安心して人のそばにいる理由だったのかもしれませんが。

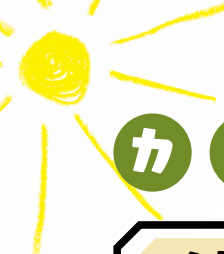


## ツバメが少なくなっている？

最近は、巣づくりの材料を集める畑や田んぼが近くにあまりなく、ひさしのない家やマンションが多くなり、巣が作りにくくなってきました。世田谷でも減ってきたと考えられています。本当は減ってきているのか観察してみてください。

### ツバメの暮らし

ツバメは春になると、フィリピンやタイなどの暖かい国から繁殖(子育て)のために生まれ故郷の日本に帰ってきます。そして1~3回卵を産み、ヒナを育て、夏の終わりが頃、また暖かい南の国へ渡っていく「渡り鳥」です。多摩川のヨシ原には、7月になると、今年巣立った若いツバメたちが集団でねぐらをつくりまわります。多い時には2000羽以上が集団ねぐらをつくっていますが、最近はねぐらにするヨシというイネ科の植物が枯れたり減ったりし、ねぐらに入れるツバメも減ってしまい、とても心配されています。



# カマキリ類

## こんな生きもの

カマキリは他の昆虫などを食べる肉食の昆虫です。そのためカマキリが住んでいるということは、エサとなる昆虫類も多く生息していて、自然が豊かな証拠といえます。区内にはオオカマキリ、チョウセンカマキリ、ハラビロカマキリ、コカマキリの4種のカマキリが生息しています。カマキリは卵のうと呼ばれる白いあわの中に、種類によっても違いますが100～200の卵を産みます。



オオカマキリ



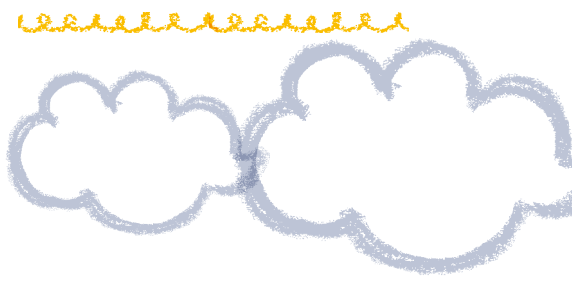
ハラビロカマキリ



チョウセンカマキリの卵のう



コカマキリ



## チョウセンカマキリ

チョウセンカマキリは畑や広い草地、河川敷などの開けた環境で見られることが多く、オオカマキリより少し細身です。前足の付け根の間が朱色（オオカマキリは黄色～橙色）、内側の羽（後羽）の色もオオカマキリよりも薄く、卵のうは細長くて硬い感じで、草の茎などに産卵します。

## オオカマキリ

オオカマキリは、その名のとおり大型で、樹木の周りや木のある公園などで見られます。内側の羽（後羽）が紫褐色をしていて、背の高い草や低木、ササなどに産卵します。卵のうは丸くてスポンジのような形をしていますが、見たことがありますか？

## ハラビロカマキリ

ハラビロカマキリはオオカマキリよりも少し小さく、よく木にいます。お腹が膨らんでいて外側の羽（前羽）に黄白色の小さな紋があり、木の幹などにつけるように産卵します。卵のうは硬い感じで、底側に丸みがあります。

## コカマキリ

コカマキリは名前の通り小型のカマキリで、公園や畑、家の周りなどでよく見られます。前足の内側に黒と紺の小さな模様があるのが特徴です。卵のうはチョウセンカマキリに似ていますが少し小さく、壁や板、柱などにも産卵するので、注意深く探してみましょう！





# ヒグラシ



## ヒグラシを見つける目的

ヒグラシはやや湿潤な樹林地環境を好みます。ヒグラシが生息しているところを調べると、そこは湿った環境ということがわかります。最近、区内ではあまりヒグラシを見かけなくなってきたといわれますが、どうでしょうか？世田谷にもまだまだヒグラシが棲みやすい環境が残っているかもしれません。耳をすませて探してみましょう。

## 見つけるポイント

「カナカナカナ」という涼しげな鳴き声で、夏のはじめの頃、早朝や夕方になると鳴いています。小さく丸みのある抜け殻に泥がついているのが特徴です。



## 注意しよう

ツバキやサザンカの木には、チャドクガの幼虫がいることがあります。林の中に入るときには十分に気を付けましょう。毛(トゲ)にさわると、痛みが1～2週間ぐらい続いてしまいます。

# クマゼミ

## クマゼミを見つける目的

日本で一番大きなセミで、「シャンシャンシャン」と明け方から大きな声で鳴きます。西日本では普通に見かけることが出来るセミで、関東、つまり区内ではあまり見かけない種類ですが、「まちの生きものしらべ」では2008年に砧や烏山でクマゼミの確認がされています。区内もだんだんとヒートアイランド化にともない土が乾燥してきたことから、そうした環境を好むクマゼミの分布が広がってきているのかもしれません。何年か続けて観察してみるのも面白そうですね。



セミの羽化



## セミのリー

種類によって、鳴き声だけでなく、鳴く時間も時期も違います。区内でよく聞くセミの鳴き声は…  
 「チーチー」と梅雨が明けた頃に鳴きはじめるのがニイニゼミ。  
 「ミーンミンミンミン」と真夏になってくると鳴くのがミンミンゼミ。  
 「ジリジリジリ…」と油を揚げている音に鳴き声が似ているのがアブラゼミ。  
 「カナカナカナ」と真夏に涼しげな鳴き声で鳴くのがヒグラシ。  
 「ツクツクボーシ」と夏の終わり頃に鳴くのがツクツクボウシ。  
 ツクツクボウシが鳴きはじめると「もうすぐ夏休みが終わって、2学期がはじまるなあ」と思う頃です。



# カブトムシ & クワガタ類

## カブトムシ

### 成虫になるのは大変

みなさんは、世田谷でカブトムシを見つけたことがありますか？見つけようと思っても、なかなかそんなチャンスは少ないですよ。幼虫は、畑の堆肥の中や、公園の落ち葉だめなどによくいますが、幼虫の時にモグラやカラスに食べられてしまう確率が高く、成虫になるのはなかなか大変です。そんな貴重な成虫は、砧公園や成城三丁目緑地、等々力溪谷などで見つけることができます。



## カブトムシと人の生活

カブトムシはコナラやクヌギなどの樹液が好物です。この木は老木化すると、樹液が出なくなってしまう。昔は電気やガスの代わりに薪を使っていたので、手入れをした雑木林の木からは、樹液がよく出ていました。そして畑の肥料にするために落葉で腐葉土を作っていたので、カブトムシはそこに産卵しに来ていました。そのためカブトムシと昔の人の生活は、とても身近な関係でした。カブトムシがたくさん生息できるようなまちにするには、どうしたらいいのでしょうか？まずは皆さんが、どんなところでカブトムシを見つけれられるか、探してみてください。

## クワガタ



## ヒラタクワガタ

## クワガタ類



## 注意しよう

カブトムシを観察する時には、樹液の好きなスズメバチに気を付けましょう。夏から秋にかけてのスズメバチはとくに攻撃的になります。ハチに出会ったら、手で追いはらったりせず、静かにハチがいなくなるのを待ちましょう。もしも巣に近づきすぎたら、そっと後ろにさがって逃げましょう。

## クワガタ類

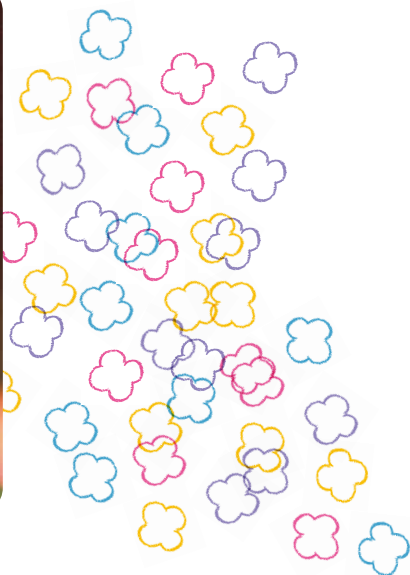
クワガタは兜のかざりの鋏形に似ていることから名づけられました。幼虫は倒木などの中で朽ち木を食べてすごし、成虫になるとクヌギ・コナラなどの樹液に集まったり、外灯に飛んできたりします。カブトムシを見つけたら、クワガタの仲間も一緒に探してみてくださいね。



# アゲハチョウ類



キアゲハ



## 幼虫の食べもの

チョウは、種類によって幼虫時代に食べる植物が決まっています。ナミアゲハはミカンの仲間の木の葉を食べて育ち、またキアゲハはニンジンやパセリを好み、畑の周りで見ることができます。最近、都市部では常緑のクスノキが多く植えられるようになったことから、クスノキの葉を食性とするアオスジアゲハが、区内では多くなってきたといわれています。用賀駅の前ではアオスジアゲハがたくさん見られるそうです。



アオスジアゲハ



クロアゲハ



ナガサキアゲハ

## いろいろなアゲハチョウ

大きなアゲハチョウがヒラヒラ飛んでいる姿を見ると、なんだか優しい気持ちになりますよね。区内には、キアゲハ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、クロアゲハをよく見かけます。その他にも、オナガアゲハ、カラスアゲハ、ジャコウアゲハ、モンキアゲハなどがあります。最近ではたまに、温暖化の影響なのか暖かい地方にしか飛んでいなかったナガサキアゲハが見られるようになってきました。



オナガアゲハ



ジャコウアゲハ

## チョウの道「蝶道」

世田谷をいろいろなアゲハがたくさん飛ぶまちにするために、まずはどんな種類のアゲハがいるかを調べてみましょう。チョウには「蝶道」という特定の飛ぶコースがあるので、どんな花に来ているかも観察してみてください。アオスジアゲハ、クロアゲハなどは特徴がはっきりしているので、もし判れば名前を記録してみよう。種類がわからないときは、「アゲハチョウ類」と記録して、「黒かった」とか「オレンジの模様があった」など、特徴をメモしておくといいですね。

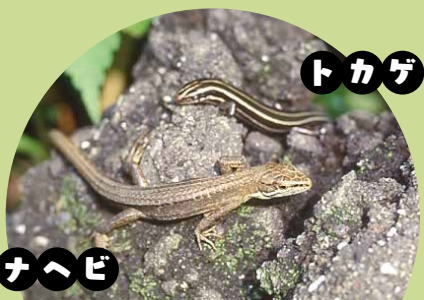




# カナヘビ & トカゲ

## カナヘビとトカゲの見分けかた

お互いとても似ていますが、カナヘビはウロコが大きく角ばっており、1枚1枚がガサガサして乾いた感じですが、手足と尾がずらりと長く、色は地味です。地上性ですが、2mくらいの高さであれば、ブロック塀や木に登ることが出来ます。トカゲは頭以外のウロコの大きさは全ておなじで、ツヤがあり光沢があります。成長と共にしっぽの色が青色～褐色に変わるので、見つけた際、トカゲの尾の色もよく観察してみてください。



カナヘビ

### 注意しよう

カナヘビやトカゲをつかむ時にうっかり尾をつかんでしまうと、敵から逃れるために尾が切れてしまいます。これは自切という行為で、関節部分で切れたあと、尾がまた再生するのは有名な話ですね。



## カナヘビ

日本に広く分布するトカゲの仲間、日本固有の種類です。体の色は褐色～灰褐色で、尾の長さが全体の3分の2ほどにもなります。平地から低山地の堤、草地、庭先など、林の周辺の草むらにいたることが多いため、森林の中ではあまり見られません。昼間は日光浴や食事をして、夜は落葉の間や草の上で睡眠をとります。ふ化には1ヶ月以上かかるため、卵にカビが生えないように草の根本や赤土の上などを産卵場所を選びます。寿命は3～4年、室内ではその2倍も生きるそうです。冬には木の根の下、石垣、畑の土の中にもぐりこみ冬眠をし、時には集団でひとかたまりとなって、冬を越すこともあります。

## ニホントカゲ

日本では普通に見られるトカゲで、平地から山地の草地や石垣、庭先などで見る事が出来ます。昼間の天気の良い日には外で活動し、夜間や雨の日は巣穴で休みます。繁殖期にはオスののが婚姻色でオレンジ色になり、メスは石や倒木の下に巣穴を掘ってその中で産卵します。卵がふ化するまで大事に保護する行動は、カナヘビとは違う生態です。幼体の体には5本の黄白色のラインが入っており、亜成体、成体になるにつれて、茶褐色の金属光沢になり、黒いラインが体側に見られるようになります。





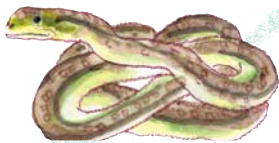


# へ ビ 類



## アオダイショウ

日本で見られるヘビの中では、最も大きくなる種類です。全長が約100~250cm、最大300cmほどにもなる個体もいるようです。以前に野川で見つけたアオダイショウは208cmでしたので、更に大きな個体もいるかもしれませんね。日本固有種で、北海道、本州、四国、九州とそれらの離島に生息しており、平地や雑木林、また住宅地などの近くなどにいることや、昼間に動き回るため出会う機会も多いです。性質はおとなしく、無毒なヘビですが、捕獲すると特有の臭いにおいを発します。幼蛇はマムシの模様に似ているため、よく間違えられることがあります。アオダイショウは体が白い「アルビノ」が出現することも有名で、特に山口県岩国市ではアルビノ個体が多く出現し、「神の使い」として天然記念物に指定されています。



## シマヘビ

日本で最もよく知られている種類で、全長は約100~150cm、最大200cmほどになる日本固有種です。北海道、本州、四国、九州とそれらの離島に生息し、平地や山地、河川などで観察することができます。区内では、野川や仙川、多摩川などの、水辺の草むらや、川を泳ぐ姿を見かけることがあります。シマヘビの幼蛇は、親のしま模様とは異なる横じまがあり、成長するにつれて縦じまへと変化していきます。シマヘビには体の色が真っ黒の黒色型が出現することがあり、通称カラスヘビともいわれます。泳ぎが得意で特にカエルを好物とし、丸のみにした後、数日で消化してしまうようです。アオダイショウやヒバカリに比べると性質はやや荒いですが、シマヘビも無毒のヘビです。

## ヒバカリ

ヒバカリも日本固有種の小型のヘビで、全長は約40~65cmほどです。胴は細長く、頭部は比較的小さいです。本州、四国、九州とその周辺の島に生息し、低山地から山地の森林、水辺や湿気の多い環境を好みます。体の色は背中が褐色や茶褐色で、頭部と背面の真ん中は暗褐色です。アゴのあたりから首にかけて黄色い筋の模様があり、腹側は薄い黄色です。夕方や薄暗い日中に行動することが多く、よく水に入り、カエル、オタマジャクシ、小魚、ミミズなどを好みます。性質はきわめて温厚で、めったに噛むことはありませんが、時には威嚇行動をとることがあります。無毒ですが、昔は毒蛇と思われ「噛まれると、その日ばかりの命」が名前の由来とされています。区内では、国分寺産線の林で観察記録があります。





# ヤモリ

## こんな生きもの

ヤモリは人家に住み着き、家を守るような姿から「屋守」とも呼ばれています。特に古い民家に多く住んでおり、**屋間**は壁のすき間や植木鉢の下、木の**表札**の裏側などに身を潜めています。夜になるとエサを求めて動き回り、**電灯**の明かりに集まる昆虫などを捕食します。冬は人家の暖かさを利用して、天井裏や壁のすき間で春を待ちます。

## ヤモリとイモリ

よく似た名前に「イモリ」がありますが、たまにヤモリとイモリを混同してしまうことはありませんか？ ヤモリはは虫類で、イモリは水中で生活する両生類です。家を守るのが「屋守」、井戸を守るのが「井守」と覚えるといいですね。日本各地で見られるイモリですが、残念ながら世田谷では見ることができません。



## ヤモリの秘密

ヤモリが壁やガラス窓をスイスイ移動するのを、不思議に思ったことはありませんか？その秘密は、ヤモリの足の裏にあります。微細で先が分かれた毛が約50万本も密集しており、その毛と毛の間で働く力で、強力に張り付くことが出来るのです。家のガラス窓の外にいたら、是非じっくりと観察してみてください。更に、体の色や斑紋も、周りの明るさに合わせて色を濃くしたり淡くしたりと変化させることが可能です。



# ヒキガエル

## こんな生きもの

ヒキガエルは夜行性で、**屋間**は森林内の落葉や石、倒木の下にひそみ、そこを中心に、半径10~20mが行動圏となっています。これを「**帰巢性**」といいます。産卵以外ではあまり水に入らず、後肢の水かきも小さく泳ぎの下手なカエルですが、水に近い林や藪などの暗い場所を好みます。区内では公園や緑道、人家やお寺など、古くから池があるような場所で見られます。



## カエル合戦!?

区内での繁殖期は2~4月頃で、毎年決まった頃に一斉に同じ水辺に集まり、数日間、オスは「カエル合戦」と呼ばれるメスの奪い合いをします。産卵後、親は本当に暖くなる5月半ば頃まで、またもとの場所に戻り冬眠の続きをします。卵からかえったばかりの幼生は体長0.8cmで、4~5ヶ月で変態を終了し、平均3年10ヶ月で親になり、秋には風のあたらない日あたりのよい林や藪で冬眠します。



# カタツムリ類



ヒダリマキマイマイ



ミスジマイマイ

## 海から陸へ

カタツムリは「陸産貝類」と呼ばれ、本来海に生息していたものが海→淡水→陸上へと長い時間をかけて進化してきました。カタツムリには「デンデンムシ」「デデムシ」「カイツムリ」「カイツブリ」「マイマイツブリ」など、多くの呼び名があります。昼間は、薄暗く湿った落ち葉が堆積した場所、腐朽した木の幹の下などにおり、乾燥を嫌います。そのため林を生活の場所にし、雨が降りや湿気の多い夜によく見られます。

## カタツムリが好きな環境

カタツムリは植物の葉や落枝の分解過程の堆積物などを食べ、雑木林などの土壌づくりに一役買っています。こうした生きものが生息していることによって、雑木林の自然は支えられています。そのため林や森の環境を好むカタツムリは、開発されて木がなくなるとそこに住むことが難しくなってきます。一方、外国からきたオナジマイマイは森には住めず、草原や住宅の庭を好みます。



## 大人と子どもの違い

大きさに関係なく、殻口のヘリが丸みを帯び、そりかえっていれば成員（親）で、殻口のヘリがざらざらしていれば幼貝（子ども）です。

## カタツムリの見分けかた

殻頂（殻の渦のてっぺんのところ）を上にして、向かって右に殻口（殻の穴のこと）があれば右巻きのマイマイ。「ミスジマイマイ」がこれにあたります。同じように左に殻口があれば左巻きのマイマイ。これが「ヒダリマキマイマイ」ですね。

## 注意しよう

寄生虫をもったカタツムリがいる場合もあるので、カタツムリを触った後は、手洗いをしっかりしましょう。



## 生きものを学習できる施設

### ⇒ 二子玉川公園ビジターセンター

玉川1-16-1 電話：03-3700-2735

〔開館時間〕 午前8時30分～午後5時

〔休館日〕 年末年始(12/29～1/3)

### ⇒ 桜丘すみれば自然庭園

桜丘4-23-12 電話：03-3420-2755

〔開園時間〕 午前9時～午後5時(10月～3月は午後4時まで)

〔休園日〕 年末年始(12/29～1/3)

### ⇒ (一財)世田谷トラストまちづくりビジターセンター

成城4-29-1(野川緑地広場内) 電話：03-3789-6111

〔開館時間〕 午前9時30分～午後4時30分

※お問い合わせは開館日の午前8時30分～午後5時

〔休館日〕 月曜日(祝日の場合は翌平日)、

年末年始(12/29～1/3)

まちの生きものしらべガイドブック (2021年5月発行)

〔編集・発行〕 世田谷区みどり33推進担当部みどり政策課

〒158-0094 世田谷区玉川1-20-1

(世田谷区役所二子玉川分庁舎内)

電話：03-6432-7902(平日午前8時30分～午後5時)

FAX：03-6432-7989

〔協力〕 制作：一般財団法人世田谷トラストまちづくり

写真：伊藤 信男、山崎 裕志、水上 まゆみ、荒井 広司

イラスト：松下 長子

※本書の掲載文・写真・イラストなどの無断転載および複写を禁じます。